

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|---------------|----------------------|
| 事業所番号 | 3090100151 | |
| 法人名 | 社会福祉法人 寿敬会 | |
| 事業所名 | グループホーム ハルジオン | |
| 所在地 | 和歌山市井ノ口301-1 | 電話(073-477-7600) |
| 自己評価作成日 | H27年1月21日 | 評価結果市町村受理日 H27年4月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kairakensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JisyouCd=3090100151-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 和歌山県社会福祉士会 |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛 6階 |
| 訪問調査日 | H27年2月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に包まれた、静かな環境の中で、地域との交流を活かし、御互いに助け合い、共有して毎日を楽しく生き活きと生活できる様に心がけています。その人らしい生活を過ごせる様に連携の病院・訪問看護と情報を密に行い健康管理に努めています。又、グループホームに入居されても今までの生活習慣を大切に過して頂きたい思いで、職員の思いを専攻するのではなく、入居者様の選択を優先する様に努めています。今まで以上に社会との関わりを無くさず、関わりを大切に、笑顔と笑いの耐え無い環境作り、家庭生活の延長を目指したグループホームを築いていきたい。入居希望の対応として、家族と一緒に1日体験して頂き施設を観て頂く様に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の福祉施設として馴染まれた母体法人との連携の中で、小規模多機能型施設・デイサービスと共に、地域密着型施設としての役割を担い隣接されたグループホームである。どかな自然に囲まれ、ホーム内には、畑や花壇・ロフト風の中庭を利用した憩いの空間が広がり、日差しを浴びながらの屋外活動を日々の暮らしの中に取り入れている。「楽しく・ゆったり・笑顔の暮らし」を理念に掲げている。各居室には手作り表札の案内で、「そのひとらしさ」に出会える場を整えている。プライベート空間や夜間の安全には最新式介護ロボット「安全監視システム」を必要に応じて配備し、事故防止等の安全に配慮している。日中を過ごす居間や食堂は、広いスペースと中庭からの陽光で、馴染まれた職員や入居者間での、会話が弾み、アットホームなゆったりとした時間が笑顔と共に、流れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 外 部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|---|---|--|---|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念をホームのリビングに掲げ意識できるようにしている。 理念を共有する事で利用者・家族・職員の相互の信頼関係や地域との関わりを重視し実践に努めている。 | 地域密着型サービスの意義と役割を実践し、「楽しく・ゆったり・笑顔の暮らし」を実現している、理念の元で、新規職員教育にも力を入れている。 | |
| 2 (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事や催しに利用者と共に参加している。職員は地域の清掃や児童の登校時の交通安全対策（旗持ち）等も行っている。 また地域の方々が積極的にボランティア活動を通じて関わって下さっている。地域の自治消防団等にも参加させて頂ける様に声をかけている。 | 管理者と職員は地域行事や小学校登下校時の「旗持ち」等、積極的な地元とのお付き合いが継続して行われている。地域の駐在さん、小学生等の日々の交流がある。 | 災害・防災・介護事故等における、予防と対策において、介護サービス事業者が地域の中で、取り組むべき課題として、今後も検討を重ねる事に期待したい。 |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隔月に一度「ハルジオンカフェ」と称した催しを行い、地域の方々をはじめ利用者や家族も参加される茶話会等を実施している。 | | |
| 4 (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月に一度、運営推進会議を開催。利用者・地域包括支援センター・家族・同地域内の他GHが参加し相互の連携を図っている。 | 充実した隔月の運営推進会議の開催が確認できる。また、他のグループホームとの交流の場面や相互連携等の新たなリーダーシップの姿勢がある。 | |
| 5 (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 母体法人内に地域包括支援センターがあり、地域運営推進会議以外でも地域包括支援センターと常に連携を取り合い助言・指導を仰いでいる。 | 地域包括センターや母体法人との常日頃からの連携下の中で、事業所のケアサービスの取り組みの紹介(利用者作品紹介)等を積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。 | |
| 6 (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修を行うなど防止に向けた取り組みは行っている。家族からの要望があり玄関の施錠は実施しているが、時間を決めて行っている。早朝の1人対応等、見守りが出来る状態の時は開放している。 | 人権擁護教育・虐待防止法の理解・身体拘束をしないケアは、法人内研修において職員全員参加であり、日頃のケア実践へのつながりを確認する。玄関の施錠解放時間の検討は継続する目標達成計画として、常に課題としている状況である。 | |
| 7 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 法人として、人権擁護委員会で研修参加勉強会を実施している。又、他の施設で起こった事件等処遇会議で討論・検討を行い、職員はストレスを貯めない様に職員間で、問題解決を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、制度利用の実績は無いが制度そのものについての研修等は法人全体で取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前には事前訪問し重要事項の説明を実施。また見学や一日体験を行う等、実際のサービスを体感して頂ける機会を設け、そのうえで契約を締結している。解約・改定の際にも時間を掛け十分に説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見、要望を抽出しやすくするためハルジオン通信での伝達や家族会を開催。電話や面会時の意見等も全体で共有し反映出来る様にミーティングで検討。苦情は運営推進会議でも取り上げ結果をハルジオン通信で報告。 | ハルジオン通信や、事業所からの事務通信時、家族会、家族訪問時等において、常に問い合わせる機会としている、頂いた意見に対しては誠実に検討、対応して、日々の業務改善に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | GHや事業所全体のミーティングの場で職員の意見、提案を必ず聞くようにし反映できる様に管理者会議で検討している。会議の内容はミーティングや書類回覧で職員に報告を行っている。 | 管理者からの指導に対して職員の受容姿勢には、信頼関係の構築を感じられ、意見や提案を出しやすくする機会とフィードバックのシステムができている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人全体でボーリング大会を実施する等コミュニケーションの場を設けている。普段の場でも様々な意見を話せるような職場の環境作りを図っている。資格取得時に勉強会等を開催し向上出来る様支援を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ケア関連の研修のみならず資格取得支援講座を法人全体で行い向上に努めている。外部研修は、開催情報を伝え、参加者による伝達講習を実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH連絡会、近隣施設との運営推進会議だけでなく行事などの相互訪問も行き情報交換を行う事で相互が質の向上に努めている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------------------------------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に訪問し面談を重ね、またホームでの一日体験の機会も設けることで利用者の今後に対する想いを考慮できるようにしたうえで信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の訪問で家族の不安や要望を把握できる様にし、対応、支援して行く方向を検討、又、何時でも話し合いが出来る様に信頼関係を築く様に努めている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントを元に「今、何が必要か」という支援を明確にしサービス開始初期は特にリロケーションイメージに注意を払いながら対応している。インフォーマルサービスも含め多角的なサービス併用にも対応できるよう図っている。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「共に日々の生活を送る」という考え方の下、職員による一方的な支援にならず利用者や職員の相互の助け合いができるようお互に理解できる関係を構築できるよう努めている。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームでの生活の様子や身体状況など面会時に詳しく伝え、毎月のハルジオン通信でも報告を行い情報の共有化に努めている。家族会や行事にも参加していただき関係を密に出来るように図っている。 | | |
| 20 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前から親交のある方に手紙や年賀状を出すなどして関係が途切れないようにしている。また家族の面会時にもそういった方々への訪問のお願いを行ったり、家族の協力で馴染みの場所に外出できる様に支援している。 | 家族の訪問の日常化、年賀状や季節の絵手紙などを通じて、関係維持を継続する。馴染の美容院へのお出かけや、身だしなみへのケア支援を通じて地域の中に暮らすことを支えている。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 他の方々と談笑する、または一人で静かに過ごすなどが出来るように環境づくりに配慮している。居室で長い時間独りきりにならないよう、また全体の中で孤立しないようお互いの関係を見極めながら支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了されても家族がホームに来られている。これまでの関係性を崩すことの無いように気軽に来所できる雰囲気作りに努めている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの希望を第一に尊重し、家族とも相談した上で可能な限り意向に沿った支援を行っている。 | 本年度は、新しい入居者を迎える機会が多く、センター方式によるアセスメントを大切にしながら、体験利用や家族との情報交換を通じて、思いや意向の把握に努め、本人主体の支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活習慣が大きく変わることの無いよう、生活歴等を把握し職員が情報を共有し個別の生活の支援を行っている。又、現在の状況に合わせた生活の支援も心がけている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者や家族の希望を把握し、職員間での処遇会議で情報交換や共有を通じてモニタリングを行い、検討しプランやケアに活かしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族や本人と相談し入所時に出来るだけ以前から使用していた家具や品物を用意してもらいたいなどある空間になるように努めている。居室のレイアウトも意向に沿いながら家具等を設置している。 | 利用者主体の介護計画作成を、できる限り本人と家族を交え、支援するチームで共有できるように、努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は常に介護記録表に記入し、情報を共有化しミーティングを実施している。その上で計画の見直しや実践につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 隣接している他事業所との交流も積極的に図ることで意見や情報を得、視野を広げることで既存の枠組みに捉われず柔軟に対応できるよう努めている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|----------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事(清掃・交通指導等)に参加し、施設の方でカフェ等行事を作り地域の方に参加して頂ける様な支援を心がけている。 | | |
| 30 (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 週1回の往診・訪問看護にて対応、連携を行い健康管理に努めている。又、本人、家族の希望でかかりつけの病院での受診も実施行っている。 | 事業所の協力医の往診の他、本人や家族の希望でかかりつけの病院で医療を受けられるようになっている。また、訪問看護対応により質の高い医療的ケアが行われている。 | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪問に来て頂いて日々の利用者様の変化等を相談して個々に合った適切な指導を受けている。 | | |
| 32 | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院の際には医療関係者や家族とも連絡を密にすることで情報を共有し治療や退院後の支援にあたっている。入院中も面会し状態の把握に努めている。関係医療機関とも情報交換は常日頃行っている。 | | |
| 33 (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時には本人や家族のターミナルに対する意向を確認している。そのうえで状態が変化した際は改めて意向を確認し今後の方針を定める。現在ターミナルの方はいないが、専門職や関係機関との連携により最良の支援を行うようにしている。 | 重度化した場合における(看取り)指針を策定し、事業所が対応し得る最大のケアを本人やご家族に行っている。また、本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携して安心して納得した最期が迎えられるように隨時意志を確認しながら取り組んでいる。 | |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています | 応急手当などの緊急時マニュアルを作成し、常に職員の目の届くところに設置している。実際の方法は施設内研修を実施しいざという時にできるようにしている。 | | |
| 35 (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防訓練を年に2回実施。職員と利用者が一緒に避難経路の確認や消火器の場所や取り扱いなどの訓練を行っている。DVD鑑賞会も実施している。 | 消防署の協力を経て職員と利用者が一緒に避難経路の確認や消火器の使い方等の消防訓練を年2回行っている。また、災害に備えて、食料や飲料水等の物品を準備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重できるようミーティングなどで接遇などの議論も行い、対応を取れるよう心がけている。不適切な声かけや対応があれば職員相互で改めるよう注意している。 | 本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。また、不適切な言葉遣いや対応があれば改善に向けた取り組みを行っている。 | 人権意識の向上を図り、誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応ができるように研修(接遇マナー・福祉の基礎的研修等)を全職員が受けしていくことが望まれる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の表面的な意向のみならず、本心が引き出せるように出来る関係作りを心がけている。その思いを尊重し、決定できる緩急や状態であるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課等の計画や予定はあるが利用者の個別の状態に即して、強制はせず本人の意向に沿いながら日々を過ごして頂けるよう支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容を定期的に利用し、毛染めも希望があれば職員が実施している。近隣の美容室も利用。服装も家族に依頼したり、衣料品店に買い物に行くなど充実を図っている。リビングに姿見の鏡も設置している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好や希望を取り入れ献立とともに考えている。調理や後片付けも利用者の状態に応じて一緒にしている。 | ふだんの会話の中から利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを決めて職員と利用者が一緒になって調理や後片づけ等を行っている。また、楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 介護記録表に食事量・水分量を記録している。また個々の状態等を把握しその状況に応じた食事や水分補給が出来るようにしている。カロリー表も活用しバランスの取れた献立になるようにつとめている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後に声かけを行い、自分で出来る人には自分でして頂き、出来ない方には介助を行うなど個別支援を行っている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう介護記録表に時間や状況を記録している。それに基づき極力オムツを使用しない排泄支援を行っている。周囲に気づかれないような配慮も行っている。 | 排泄チェック表を使用し、オムツを使わない排泄やトイレでの排泄を大切にしながら一人ひとりのパターンに合わせて、さりげない支援を行っている。 | |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維の多い食事を献立に取り入れたり、水分が不足しないように努めている。便秘時には服薬による支援を行っている。 | | |
| 45 | (17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 家庭での生活時間を味わって頂きたく、夜間対応の入浴を提供していましたが、入居者様の希望を再度聴き、個々の希望に添った時間帯で対応している。 | 一人ひとりの希望に沿った時間帯に入浴していただいている。また、入浴を拒む人に対しては対応の工夫によって入浴支援を行っている。 | |
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間良く眠れる様に日中充実した活動を行ってもらえる様支援し、又、個々を良く観察を行い体調不良時は臥床してもらう。 | | |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の薬の情報を職員間で確実に把握できるように、調剤薬局からの薬剤情報表を介護記録表に綴じている。また粉砕したりとろみをつけるなど顔別の支援も実施している。 | | |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴や強みを活かせるよう、洗濯や掃除、調理などの日常生活で果たせる役割に応じて支援を行っている。隣接する他事業所の行事やレクリエーションにも参加され気分転換が図られるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、散歩したり、買い物や通院への外出を行い、四季を感じて頂き、気分転換して頂く為にドライブや外食、遠足等提供している。又、家族の協力を得て外出・外泊を実施している。 | 一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて散歩や買い物、ドライブ、外食、遠足、花火大会等に出かける支援を行っている。また、家族の協力により、個々の外出・外泊を実施し、気分転換やストレス発散が図られている。 | |

| 自己 外 部 | 項 目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|--------------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している | 家族の了解の元、金銭管理の出来る方は、3000円～5000円程財布に入れ、一緒に買い物に出かけたり自分の好きな物を購入して頂き自分で支払う事の出来る支援をしている。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に電話したい等希望があれば必ず対応している。手紙を書いたり、誕生日等は、家族の参加又は、家族からの手紙等の支援をしている。 | | |
| 52 (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関・リビング・居室など日差しが入り明るく開放的な環境である。車椅子での移動に支障が無い十分なスペースも確保されている。ウッドデッキや芝生の中庭など屋外での活動に適した空間も整備されている。 | 玄関やリビング、食堂等は明るく居心地良く過ごせる空間となっている。また、車いす移動がスムーズにできるよう、物の配置を工夫し、整理整頓が行き届いている。また、芝生の中庭やウッドデッキ等の空間が整備され、屋外活動も楽しめるよう工夫されている。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間のリビングにソファーや畳を設置し、それぞれの方がテレビを見たり洗濯物をたたむなど、思い思いの日常を過ごせるような居場所を設けている。 | | |
| 54 (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族や本人と相談し入所時に出来るだけ以前から使用していた家具や品物を用意してもらいたいなどのある空間になるように努めている。居室のレイアウトも意向に沿いながら家具等を設置している。 | 居室は使い慣れた家具や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。また、なじみのある空間になるようレイアウトされている。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 部屋やトイレ、浴室などには場所や案内を設置している。動線に沿って手すりを設置し段差も極力なくすなど移動時の安全に配慮している。職員の見守り体制を整えたうえで自己にて行えることが出来るような環境づくりに努めている。 | | |